



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二六〇号〜

寒露 かんろ

十月八日

夜長

夕刻、ふと気がつくとい日暮れていて驚くことがあります。灯をともしず時間が早くなりました。伊勢市の日没は秋分の日は午後五時五十分でしたが、寒露の今は午後五時二十九分と二十分ほど早くなっています。秋の季語である「夜長」を実感する時で、「夜が長くなりましたね」という季節の挨拶も聞こえる頃。実際には十二月の冬至の頃が最も夜の時間が長いのですが、むしろ秋に夜長といわれるのは、厳しい暑さの夏を超して、快適な夜の時間が長くなるのを喜ぶ気持ちが進められているからです。昼と夜の実際の長短ではなく、昼と夜に対する人々の気持ちや、季語や季節の挨拶に生きています。貴重な秋の夜長は、また「秋思」の頃、もの思うことも多くなります。

先日は、志摩市阿児町の安乗神社で安乗人形芝居を見物しました。国の重要無形民俗文化財指定の伝統芸能で、九鬼義隆に由来をもつ言い伝えがあります。毎年九月十五、十六日の二夜、野外の舞台で披露されます。

今回は地元の安乗小・中学校が統廃合のため、小学生・中学生が文楽を披露する最後の舞台でした。子どもたちの舞台はすばらしい出来映えで、暑い夏休みに稽古に励み、秋の夜に本番を迎えたことが伺えました。これでまた一つの文化が消えたと嘆く声もありましたが、客席からおひねりがひっきりなしに飛び、舞台と観客が一体となった子どもの文楽を目の当たりにすると、また形を変え復活するよう感じました。四百年続くというこの安乗人形芝居も大正末期から昭和初期には不況や戦争などでやむなく中断されたこともありましたが、戦後復活した経緯もあります。子どもたちの熱演を思い出しながら、その復活を願う夜長です。

文 千種清美

おかげの里便り

おかげ横丁

○ 恵みの市

10月15日より伊勢神宮にて執り行われる神嘗祭を奉祝し、秋の収穫を喜び神様に感謝する「恵みの市」を開催いたします。

と き／10月7日(土)～17日(火) 10:00～17:00

ところ／おかげ横丁一帯

● 伊勢神宮内宮への奉納行列

五穀(米・麦・粟・黍・豆)を携えた少女を先頭に、神宮への奉納物を担いだおかげ横丁と関わりのある生産者の方々が感謝の気持ちを神様にお届けします。

と き／10月7日(土) 10:00～

● 御食国の産物市

伊勢志摩を中心とする生産者のこだわりの産物を集めた市が立ちます。

ところ／赤福別店舗側堀沿い一帯

● 伊勢路の新米市

三重県産を中心とした新米を集めました。香り豊かで甘みの多い新米をお楽しみください。 ※量り売りですので、少量からお求めいただけます。

ところ／おかげ横丁内「特設屋台」

五十鈴塾

○ 伊勢の秋を楽しむ～伊勢をめぐる歳時記～

伊勢神宮のお正月は2度あります。

10月の神嘗祭は古くから神宮のお正月といわれ、特別なものとして祝ってきました。春に種を蒔き、秋に収穫する農業は天候に左右されます。どんなに手をかけ、苦勞をして育てても天候不順には勝てません。

人はただ祈るだけです。

自然という神がもたらした実りを感謝するお祭りには特別なお食事が用意されます。収穫された、栽培された、採取された中で一番のものを、自分たちが用意できる最上のものが捧げられます。

それは一体どういうものなのでしょう。2000年もの昔から続けられてきたお祭りの食について考察します。また伊勢の初秋、仲秋、晩秋それぞれの見どころや行事、習慣などをたどり、秋という季節を満喫いたしましょう。

と き／10月19日(木) 13:30～15:00

講 師／千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加料／一般1,300円 会員800円

場 所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

なごりづき
名残月

山芋と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼印を押して、名残月を表しました。

てりは
照葉

粒餡を中に包んだ、練りきりの紅葉。この時季らしい風情とともに、夕秋への想いがひときわ高まります。

こすもす
秋桜

浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ねて、風の渡りに波打つ、コスモスの群れに似せました。